

特集

塩尻市立図書館本館の魅力を大解剖！

実はこんなにすごい！
塩尻市立図書館

本館は地域の情報拠点として、約43万冊の本、400種類以上の雑誌、1万点以上の視聴覚資料、Wi-Fiも利用できる図書館です。これまで全国的な評価としていくつもの賞を受賞し、2021年度には本の総貸出数が約72万冊と、過去最高となりました。人口が6万5千人ほどの市ですが、今も全国から注目される図書館です。

塩尻市立図書館 全国的な賞の受賞歴

受賞年	賞
2015年	Library of the year 2015 「優秀賞」
2017年	第3回地方創生レファレンス大賞 「審査会特別賞」
2018年	第4回地方創生レファレンス大賞 「奨励賞」

Library of the Yearとは...
これからの図書館のあり方を示唆するような先進的な活動を行っている機関に対して、NPO法人知的資源イニシアティブ (IRI) が毎年授与する賞。
地方創生レファレンス大賞とは...
全国から募った地域活性化や地域課題解決に結びついた図書館のレファレンスサービスを顕彰するもの。

※レファレンス...調べもの・相談

えんぱーく 視察受入数

年度	団体数	人数
2017年	56団体	914人
2018年	66団体	1,138人
2019年	67団体	877人
2020年	13団体	295人
2021年	27団体	371人
2022年	57団体	574人
2023年	42団体	376人
2024年	12団体	100人

※半年間団体数

※2010年の開館から、15,000人以上が視察に来ていただきました。

館内の魅力を発見！

児童エリアの特徴は、図書館の児童コーナーと子育て支援センターが隣接していることです。子育てに役立つ本や幼児絵が楽しめる絵本をまとめて置き、センターを利用した親子が立ち寄りやすいコーナーづくりをしています。当館は「Weラブ赤ちゃんプロジェクト」に賛同して、赤ちゃんが泣いても、子どもが声を出しても気にせず利用できるだけです。児童コーナーにある「吹き抜けは、絵本のコーナー」とい、太陰の本作家「Weラブ赤ちゃん」の制作の太陽のオブジェがシンボルです。約4万冊ある中から気になった本をすぐに広げられるように、エリア内にはテابلールやイスがちりばめられています。



塩尻市立図書館本館は2010年7月、市民交流センター(えんぱーく)内に移転オープンしました。16年目を迎える図書館本館の魅力を深掘りして紹介していきます。



太陽のコートの様子



企画展の様子(森のコート)

一般書エリアには2つの吹き抜けがあり開放的な空間が広がっています。そのうちの一つ「森のコート」は普段、閲覧スペースとして利用されていますが、定期的に絵本の原画展や写真展などを開催したり、イベントを実施したりと、多様な使い方をしています。もう一つの「月のコート」はインターネット端末や過去の新聞記事などが検索できるデータベース、統計・白書等がそろっているコーナーで、調べものに活用されています。

特徴として、単行本、新書、CD、DVDなどを刊行形態別に置くことはせずに同じテーマのものを一か所にまとめて、ワンストップで情報を手にできる棚づくりを進めています。テラシヤパンフレットを一緒に置いている棚もあります。

ここに注目！

本やさまざまな資料を収集・提供・

多彩な職員がいます

塩尻市立図書館の強みは20代、60代まで幅広い年代の職員がいること。経歴も多様で色々な知識・資格を持った人がいます。中には定年後に司書の資格を取得した人、日本図書館協会が定める研修や基準を満たした「認定司書」、担当するワインの知識を深めるために「ワインエキスパート」の資格を取った人、絵本について専門的な知識や技能を持つ「絵本専門士」、長野県農政部の元職員で作物に精通している職員など、バラエティに富んでいます。普段はわからないような知識やスキルを、イベントなどで発信しながら、みなさんの図書館ライフをお手伝いします。



お声がけください！

私のお気に入りの1冊

今回の紹介者は...
塩尻市長 百瀬 敬 さん



本を紹介してほしいと言われ、35年ぶりに手に取った。登場人物に「鼠」がいることだけは覚えていた。舞台となる1970年は私の生まれ年である。「みんな同じさ」という言葉がある。不変だなと感じた。一方、人との出会いや別れは激変した。時の移ろいを感じとれるのが本の魅力か。今年こそノーベル文学賞受賞を、と願う。



『風の歌を聴け』
村上春樹/著 講談社
ISBN 4-06-116367-1

図書館、こんな使い方してます！

Vol.1
いてよおさん



普段から塩尻市立図書館の本館や分館を利用してくださっています。分館をめぐるイベントも楽しみながら参加して下さる、いてさんにお聞きました。

初めて本館に来た時、衝撃でした。明るく開放的で蔵書の多さに一遍で大好きな場所になりました。ちょうどその頃、池波正太郎作品を読み始めていたのですが、本館の文庫コーナーにある作品群に興奮しました。池波作品を読みつつ新聞・週刊誌・月刊誌・新刊本を読み、自分の好みの本を探し出します。新刊本は、予約して順番待つことがあるけれど、好きな作家・シリーズができて楽しみとなりました。

本館での読書は、自宅より集中力が増してページが進み楽しい時間です。予約本の中でも特に楽しみにしている本がある時は、図書館からの電話が待ち遠しいのです。蔵書が多くてとても読み切れませんが本好きにはたまらない塩尻市立図書館です。

ただ残念なのは、蔵書点検の休館日が8日間ある事です。

いつもご利用ありがとうございます。いてさんのものすごい読書量に、司書の私たちが頭が下がります。それでも「蔵書が多くて読み切れない」とのこと。そう、実は蔵書の数は本館だけでなく、43万冊あるんです！引き続き期待にこたえられるよう職員一同、がんばります。



特集おまけ情報！

図書館のおどろきポイントを紹介！

トリビア①
館内には時計がない！

カウンターにいると「今何時ですか？」と聞かれることがあります。そう、館内には時計がありません。それぞれのカウンターに1つずつあるのみです。これは「時を忘れて過ごしてほしい」という想いがあります。

トリビア②
姉妹都市がわかる！

えんぱーくには塩尻市の姉妹都市「糸魚川市」「袋井市」「南伊豆町」「ミシャワカ市」の方角と距離を指し示す看板があります。また、えんぱーくにある壁のうち70枚には塩尻市に関するトリビアが書かれています。図書館内の壁にも22個のトリビアが書かれているので、ぜひ探してみてくださいね！

トリビア③
「テーマボックス」の数が桁違い！

図書館では定期的にテーマを設定して本を集める特集コーナー「テーマボックス」を実施しています。さまざまな切り口で本を取り上げることで、みなさんに新たな本との出会いを提供したいという思いで作っているもの。毎月15テーマほど展開していますが、ここまでの数を同時開催している図書館は稀のようです。

図書館だより

世界が広がり未来がひらける知の交流拠点

SHIOJIRI CITY LIBRARY
塩尻市立図書館

2026年 No.1
4月号



特集

塩尻市立図書館の魅力は大解剖！

図書館NEWS

2026年で開館55年を迎えます。

昭和46年4月1日に塩尻市立図書館が開館してから、2026年4月で55年を迎えます。今年度は塩尻市立図書館アニバーサリーイヤーとして、さまざまな記念イベントを企画しています。ぜひお楽しみに！

本の寺子屋事業 第2幕が始まります！

これまで14年にわたり「信州しおじり本の寺子屋」のコーディネーターを務めてくださった元『文藝』編集長の長田洋一さんが2025年8月にお亡くなりになりました。これまで、本の可能性を信じ続け、講師選定にご尽力いただきました長田さんに心から感謝申し上げます。

長田さんの意思を引き継ぎつつ、さらに幅広い世代に向けて魅力ある事業になるように講師選定を行い、2026年度のカリキュラムができました！年間リーフレットは市内図書館や市の施設、ホームページなどでご覧いただけます。皆さまのご参加をお待ちしています。

信州しおじり
本の
寺子屋

図書館だより 復刊のごあいさつ

本館が塩尻市市民交流センターに開館してからもうすぐ16年になります。いつも多くの皆さんに図書館を利用いただき、誠にありがとうございます。

2020年3月号を最後に休刊していました「図書館だより」ですが、今年度から再スタートすることになりました。内容をより充実したものにしていくため年3回の発行を目標にスタートします。塩尻市立図書館で行っているサービスについての紹介や、図書館を利用してくださっている皆さんの声も掲載し、後で見返すことができるような「図書館だより」にしていきたいと考えています。

これからも快適に楽しく図書館を利用いただけるように職員一同、皆さまのお越しをお待ちしております！



図書館のサービス紹介

近くの分館を使ってみませんか

塩尻市内には本館と8つの分館があります。県内では飯田市、松本市に次いで3番目の多さです。どんな風に分館が使われているのでしょうか？利用されている方の声を集めてみました！



70代女性

「歩いて行ける距離にあるので、近くの分館で気になる講座があると参加しています。借りたい本があるときには職員の方にたずねると見つけてくれたり、取り寄せてくれたりしてありがたいです。」



40代男性

「インターネットで予約した本や雑誌を、家の近くの分館に取り寄せて借りています。閉館中でもブックポストがあるので、借りた本を返すのにも使っています。」



30代夫婦

「引っ越してきたばかりのときはじめて分館を利用しました。小さい子どもいられる場所があるという安心感がうれしかったです。本館と比べると本の量は少ないですが、分館の広さだと、子どもがどこかに行ってしまう心配もないので本も選びやすいです。」

本館と分館を便利に使っていただくと、図書館ライフがもっと快適になるかもしれません！ぜひご活用ください。

塩尻市立図書館だより
第1号 2026年4月1日発行

塩尻市立図書館 本館 塩尻市大門一番町1 2番2号
TEL: 0263-53-3365 <https://www.library-shiojiri.jp/>
休館日 水曜日、資料整理日、年末年始(12/28-1/3)、蔵書点検日



Facebook